

借用仕候正錢之事

合式拾貫八百九拾文也

右^者戌年より当四月迄月々御算用

可申上筈之借家賃ニ御座候処右等不足ニ

相成申訳次第も無御座候、然ル所此度私

勝手ニ付岩倉町へ宅替仕度右不足

錢皆済可仕筈ニ御座候処差懸り操合も

難付甚困窮仕候ニ付余り無体なる

義ニハ奉存候得共何卒当月より月々別紙

差入置候義定書之通無間違内入仕度

段畳屋弥右衛門殿秋鹿屋彦左衛門殿御兩人

ヲ以御願申上候処御承知被下別^而忝仕合奉存候

全御恩借右等結構被成下候上ハ御義定

通り聊も断ヶ間敷義不申出御算用可仕候

万々一本人不埒仕候節本人より急度^{申出}相弁へ可申上候、為後日之借用證文仍^而

如件

借主 木屋

瀧右衛門判

天保十一年

受人 何屋

子四月日

何兵衛判

大谷藤之丞殿